

## 生活文化常任委員会行政視察概要

令和6年7月23日（火）

於 全員協議会室

午前10時00分～午前11時45分

### 1 調査概要

「ゼロ・ウェイストの取組について」

逗子市環境都市部部長

逗子市では、広域化の取組のとん挫と最終処分場の残容量のひっ迫の2点からゼロ・ウェイストに平成22年から取り組んでいる。内容としては、家庭ごみ処理の有料化や分別の細分化などがある。家庭ごみの有料化では、燃やすごみと不燃ごみの40リットルの指定ごみ袋10枚セットが800円となっている。一方でごみの分別の制度改正により資源ごみの品目を拡大し無料で回収することで、相乗的に分別が促進され、燃やすごみと不燃ごみの減量に成功している。平成27年に開始し、これまでごみ量のリバウンドも起こることなく順調に減量しているということであった。

ごみ処理施設については、令和2年度に鎌倉市、葉山町と広域化実施計画を策定し広域化することでスケールメリットが得られる仕組みづくりに取り組んでおり、今後は逗子市には焼却施設は整備しない計画となっている。

葉山町とは、生ごみ専用のごみ袋を指定ごみ袋より安価に導入し、生ごみの分別をすることで堆肥化できる施設を葉山町に共同で整備し生ごみの資源化を進めていくということであった。



### 2 主な質疑応答

問 ごみ処理の有料化について説明会をどのように開催したのか。

答 市の主催で地域の会館で時間等を変更しながら何巡も開催した。それ以外にも出前説明会で、自治会・町内会、サークルなどに可能な限り説明に行き合計で165回の説明会をした。当初は反対の声も多かったが、説明の仕方をブラッシュアップしていくことで後半には理解してもらえた。

問 ごみ有料化については選挙で選ばれる市長からは提案しにくいと思うがどのような経緯で実現したのか。

答 広域化がとん挫したため、ゼロ・ウェイストに力を入れざるを得ず当時の市長からのトップダウンで実現。

問 ごみ袋の有料化はごみ減量に必須か。

答 生ごみを減らすには、食品ロスを減らすことが大事。そのためには有料化は効果がある取組で、無駄なものを捨てるために1Lあたり2円の袋が必要となると無駄な買い物が減ることにつながる。しかし過去の経過を見ても制度をなにも変えずに減量は難しいが、分別を変えるだけでも効果はあると思われる。

問 家庭用生ごみ処理機の購入実績は。

答 助成を受けて購入した市民を対象にアンケート調査を実施。結果として比較的使い続けてくれている。ごみ袋を有料化する年には生ごみ処理器の助成件数が増えている。これから生ごみの分別が始まるので、また購入助成の申請が増えてきている。

問 ごみ袋の有料化によって、違う袋でごみを出す人はいないのか。

答 違反のごみはシールを貼って回収しないようにしている。有料化前から説明を重ねたことで自治会等の周知協力が得られた。ルールが守られないごみステーションは集中的に対策を取り、指導や移設等にも取り組み、半年くらいで一掃できた。

問 ごみの最終処分場は現在どうなっているのか。

答 処分場は、災害時のために残しているが、外部委託して資源化することで最終処分はしていない。

問 有料のごみ袋は販売店にとってメリットはあるのか。

答 販売手数料の8%と消費税を払うことで取り扱ってもらっている。

以上